

◇あれから10ヶ月 山さんの日頃の支援の様子から会議スタート◇



食べ物の管理の事で盛り上がる。口火を切ったヘルパーさん
「食べるものを、手に届くところの置いてはだめ」という。
「そうそう、この間、冷蔵庫を開けて、冷凍のパンをかじったあとがあった！」
と笑いが起きる。「食欲がすごいよね～」とまた笑い。段ボールに入っていたペットボトル 20 本以上の蓋が開いていた。「ほんと元気だよなー」「元気になって良いことだけど困っちゃうね」と話は尽きない。

食料品の保管場所を利用者の手の届かない他の部屋にまとめることで話はまとまる。

お尻を使っていざり移動。

ある日は、道路まで出て、配達弁当屋さんからの緊急報告でヘルパーが救出に向かったこと。色々な所に興味や関心が向くので、行ってみなければ状態が分からない。

そんな中あるヘルパーさんが、玄関から「こんにちは～！」と声を掛けると「はい」と返事が届く。その距離で今日はあそこの部屋にいるのかな？粉まみれかもしれない等と靴を脱ぎながらを予想して奥へと進む。と話された。

「酸素のチューブもいつも外れている」「外していても酸素98%ですよーね」
「血圧や体温も安定している」「昨日はしんどそうやった」などと、ヘルパーの利用者への観察はよく出来ている。排尿、排便の頻度や状態にまで気を配っている。昼間に便のついたお尻を床に引きずり部屋の中を徘徊、その後の掃除は大変だった！と言いながら、ヘルパーの表情は楽しそう。
「けど、かわいい人なんだよね～」「ありがとう」「ごめんね～」と言われると、許してしまう。と一同うなずく。

ヘルパーの実践は表面化されにくく、自宅から直行・直帰で働く特殊な働き方から集団で討議するカンファレンスも介護報酬上の補償もない。その為実施されている貴重な体験をさせて頂いた、きょうと福祉倶楽部の皆さんに感謝を申し上げ

藤原 るかさん 紹介
東京都の訪問介護事業所で活動しているヘルパーで、世界のヘルパーと交流したりしながら、ヘルパーの労働環境改善を求め「ホームヘルパー国賠訴訟」に参加しておられます。
著書 「介護ヘルパーは見た！」「認知症の人の「かたくなな気持ち」が驚くほどすーっと穏やかになる接し方」



街に出よう！一嚥下に困難がある人が飲めるコーヒー



喫茶店でくつろぎながら飲む本格コーヒー、おいしいですよね。

けども障がいを負うことで嚥下機能が落ちてしまえばその楽しみもなかなかありません。

おいしく、香り高いコーヒーをいつまでも味わってもらいたいと考えていたらこんな商品を見つけました。それは名古屋発祥の全国に展開するコメダ珈琲店の「とろみコーヒー」です。

朝日大学歯学部との共同開発だそうです。ユニバーサルフードは近年多く発売されるようになりましたが、その多くは生存するためには不可欠な食事に関する物でした。

この商品は「食を楽しむ」視点が感じられると思います。そしてこのコーヒーがお店でも飲めるって素晴らしいことです。

もっと楽しい外出の機会が多くの高齢者に提供できる社会こそ「誰もが排除されない」社会への一歩だと思いますか？



画像はコメダ珈琲店のホームページから借用しました。

京都ではまだお店での取り扱いは2店舗のみです。もっと広がってほしいですね。

それまでは通信販売で購入し、おうちで楽しんでください。



開発秘話はここから。

有限会社 おとくに福祉研究所
きょうと福祉倶楽部

〒617-0824
京都府京都市天神4丁目7-12 ハイソール101号
TEL 075-958-2560
FAX 075-957-2808
E-mail info@fukushi-club.com

きょうと福祉倶楽部ホームページ

